

## スマート農業推進の 取り組み

# JAかみましき(熊本県)の ザルビオ活用によるデータ駆動型農業の実践

「ザルビオフィールドマネージャー<sup>®</sup>」(以下、ザルビオ)は、衛星画像とAIで圃場の情報を解析し、圃場管理を提案する栽培管理支援システムです。今回は、ザルビオを活用しJAの営農指導の高度化・効率化や、地域全体における生産者の所得向上および経営改善をめざす熊本県JAかみましき青壮年部の取り組みを紹介します。

## ザルビオを活用した「可変施肥」で収量向上

JAかみましきでは、加速する高齢化が農業従事者の減少にも大きく影響をおよぼしており、農業をやめる方が年々増えています。いかにして効率的な営農を行っていくのか、また次の世代にどのように営農をつないでいくのが、今後の産地を維持していくための課題でした。同JAでは、このような地域の課題解決に向けて、令和5年度からザルビオを活用したデータ駆動型農業の実証に取り組んできました。

令和5年度は、ザルビオが分析した生育状況のデータに合わせて施肥量を変える「可変施肥」に取り組み、田植機による基肥の可変施肥では、対照区に比べ約50kg/10a収量が向上する結果となりました。令和6年度からは、ザルビオの「予測機能」の活用にも着手。令和6年作の麦で甚発した赤かび病の適期防除を目的として、ザルビオの生育予測、病害予測ならびに



写真2 JAかみましき青壮年部のメンバー

天気予報を活用しました。

令和7年度からは、同JAの青壮年部の生産者に実際にザルビオを活用していただき、JAはザルビオに入力された情報をもとに営農指導を行うという取り組みを実践しています。令和7年産の麦作においては、6名の生産者が114筆、約30haで活用しています。3月時点では、まだ試験中ですが、今後は赤かび病の防除適期をしっかりと提案できるのかなどを調査していく予定です。

## “カッコいい”農業をめざして

このように、JAと青壮年部が連携してデータ駆動型農業を実践していくなかでの“合言葉”があります。それは「“カッコいい”農業をしていこう」というものです。ザルビオの活用は、圃場でタブレットやスマートフォンを取り出したり、事務所でパソコンを操作して可変施肥マップをつくらたりとこれまでの農業経営にはない作業を生んでいます。これまでの農業は「アナログ」「汚れる」といったイメージがありましたが、「そういったイメージを払拭し新たな担い手の創出につなげていきたい」というのが青壮年部の想いです。

今後も、JAかみましきでは“カッコいい”農業を軸に気候変動など環境変化に対応した持続可能な農業生産の拡大をめざし、産地維持・所得向上に向けてJAと青壮年部が中心となって取り組みを拡大し地域発展につなげます。

【全農 耕種総合対策部 スマート農業推進課】



写真1 生産者にザルビオの操作方法を説明するJA職員

栽培基礎講座／はくさいの生理生態と栽培の基礎	2
栽培技術セミナー／「東北地域におけるタマネギ栽培体系標準作業手順書」	4
栽培技術セミナー／排水対策の施工による水田転作ねぎの安定生産技術	6
施肥技術セミナー／現地実態調査でたまねぎの低収要因を解明	8
防除技術セミナー／ねぎ栽培でのマルチローターを利用したネギアザミウマの防除	10
新技術セミナー／露地野菜経営における農機の自動操舵システム導入効果	12
JAと連携した農業普及活動	
飛躍的な高収量を達成する新規就農者の育成	14
届け！全農の取り組み／国産大豆の流通効率化に向けて	16
太鼓判 おすすめ品種紹介 第47回／はくさい	18

商品ガイド／農業用バイオスティミュラント「エンビタ」が登場	20
商品ガイド／刈払機用チップソー「JAチップソー」	21
インフォメーション／チームMDの産地と実需をつなぐ取り組み	22
スマート農業推進の取り組み／JAかみましき(熊本県)のザルビオ活用によるデータ駆動型農業の実践	24

### 7月号読者アンケートのお願い

よりよい誌面づくりのために、皆さまの声をお寄せください。  
回答締切：令和7年7月31日(木)  
回答方法：二次元コードもしくはURLから  
URL：<https://forms.office.com/r/9de7W3A4Xd>

